

第5学年 体育科学習指導案

ろ組 男子 18名 女子 19名 計 37名
指 導 者 福 元 健 一 郎

1 単 元 ルールを工夫したティーボール

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、「ルールを工夫したキックベースボール」の学習を通して、自分たちに合うルールやコート工夫しながら、ボールを蹴る・捕る・投げる動きを身に付け、攻守交代で進塁して得点を得るベースボール型のゲームを楽しんでいる。そして、「もっと遠くへボールを飛ばしたい」「進塁を続けて得点をしたい」といった欲求をもっている。

ここでは、みんながゲームを楽しむために、バットでボールを打って走塁したり、捕球して送球したりする技能を高める。それと共に、みんなが攻撃や守備を楽しめるルールとコートを工夫したり、自分のチームに合う作戦を立てたりして、友達と教え合い励まし合いながら、ボールを打って勝敗を競い合うベースボール型ゲームのおもしろさを味わわせようとするものである。

ここで学習した膝を曲げ体全体を使って打つ動きや肘を引いてボールを投げる動きは、第5学年「ルールを工夫したバスケットボール」での膝を曲げて高くシュートする動きや肘を引いてパスを出す動きへと発展する。さらに、中学校第1学年「ソフトボール」での膝を曲げ体全体を使って振り抜く動きや肘を引き足を踏み出して投げる動きへと発展し、投げたボールを打ち返したり、定位置で守ったりするベースボール型ゲームの楽しさを深めていく。

(2) 指導の基本的な立場

「ティーボール」のおもしろさは、バットを強振してボールを相手のいない所に飛ばしたり、打球を捕り送球して相手の進塁を阻止したりするところにある。しかも、ティー上に静止したボールを打つため、よりボールに当てやすく思い切って打つ爽快感を味わうことができる。

第5学年の「ルールを工夫したティーボール」は、全員がベースボール型ゲームの攻撃や守備を楽しめるために「膝を曲げ体全体で打ったり肘を引いてボールを投げたりする」などの技能を高める学習である。そして、全員が打つ楽しみを味わえるルールやコートを工夫したり、勝つために自分たちに合う作戦を立てたりして、友達と教え合い励まし合って運動を楽しむことができる。

このティーボールのおもしろさを味わわせるためには、試しのゲームで打つ・捕る・投げる・走るなどの主運動を体験させて自分の実態が把握できるようにする。そして、「もっと遠くへ打ちたい。」「味方に正確に投げたい。」という願いをもたせ、主運動の課題をつかませることが大切である。さらに、技能を高めるために主運動につながる体の部位の動きを体験させる活動やドリルゲームを位置付けたり、チームの戦術を向上させるタスクゲームを位置づけたりすることになる。

そこで、学習の展開としては、試しのゲームで主運動ができるかという観点をもたせて実態に気付かせる。また、主運動に必要な敏捷性や筋力も測定することで自分の課題をつかませる。単元の前半では、主運動が身につくように、打つための膝の曲げや投げるための肘の引きなどの動きを体験させて感覚をつかませる活動を位置付け、自分の力に応じて練習させる。そして、みんなが攻撃や守備を楽しめるように「全員攻撃したら交代する。」「コートを狭くして守りやすくする。」などのルールやコートを工夫する。単元の後半では、ルールやコートを選択し、自分たちのチームに合う作戦を立てさせていきたい。最後には、トーナメントを行いこれまでの動きの高まりやルール・コートの工夫と作戦による楽しさの深まりを自己評価させ、価値付けていきたい。

この学習を通して、動きの課題に合わせて練習する大切さ、全員が楽しめるように工夫したルールやコートと作戦の大切さに気づき、ティーボールのおもしろさや動きができる喜びを感じて、ボール運動やその他の運動とのかかわりを一層深めて運動に挑戦し続けられるようにする。

(3) 子どもの実態（調査人数 37名 調査結果は主な項のみ表掲）

① ティーボールに対する興味・関心（理由は複数回答）

好き	29名	・遠くに打つのが楽しい(17) ・投げるのが好き(6) ・打って走るのが好き(3) ・ボールを使うから(3) ・気持ちがあっさりする(2) ・捕るのがおもしろい(1) ・チームで協力するのがいい(1) ・関係プレーがいい(1) ・ルールを工夫するのが楽しい(1) ・おもしろい(1)
嫌い	8名	・打ったり捕ったり投げたりするのが苦手だ(4) ・ルールが分かりにくい(2) ・顔に当たりそうでこわい(1) ・あまりしたことがない(1)

② みんなが楽しめるルール

・女子の点数を多くする(6)	・全員打てたら点を増やす(4)	・一人一人の役割りを決める(4)
・審判のいうことを守る(4)	・全員打ったら交代にする(3)	・スリーアウトで交代にする(3)
・コートを広さを変える(3)	・どの塁も点数が入る(2)	・ホームランの場所を作る(2)
・打てるまで打たせる(1)	・苦手な人の点数を増やす(1)	・タッチしたらアウトにする(1)
・軽く打たない(1)	・女子用のベースを置く(1)	・ベースの数を減らす(1)

③ チームが勝つための作戦

・場所を分けて散らばって守る(9)	・遠くに打つ(7)	・力に合わせてポジションを決める(6)
・人がいない方に打つ(6)	・打ったらすぐ走る(3)	・捕ったら近くの人に投げてつなぐ(2)
・分からない人に動きを教える(2)	・自分の役割を守る(1)	・バットの向きを見る(1)

④ 動きの課題に対する自己把握（複数回答）

・狙ったところに投げる(13)	・高く上がったボールを捕る(13)	・バットに当てる(10)
・速い打球を捕る(8)	・遠くに打つ(6)	・遠くへ投げる(6)
・狙ったところに打つ(5)	・ゴロやバウンドしたボールを捕る(5)	・ボールを捕る(1)
・横の打球を捕る(1)	・速いボールを投げる(1)	

⑤ 動きのコツ（複数回答あり）

打つ	捕る	投げる
・よく見る(12) ・思い切り振る(7)	・よく見る(17) ・ボールに移動(9)	・よく見る(9) ・腕を振る(8)
・上に振る(6) ・打つ位置(6)	・両手で掴む(5) ・こわがらない(5)	・まっすぐ投げる(5) ・上に投げる(5)
・腕や腰を振る(2) ・後ろに引く(2)	・タイミング(3) ・構える(1)	・体全体を使う(3) ・体を向ける(3)
・強く握る(1) ・タイミング(1)	・予測する(1)	・手、腕の位置(2) ・手首、肘を曲げる(2)

⑥ ボール操作の技能

	膝を曲げて打つ	体をひねって打つ	肘を引いて投げる	足を踏み出して投げる	ボールを捕る	高く上がったボールを捕る
できる	16名	18名	16名	15名	27名	22名
できない	21名	19名	21名	22名	10名	15名

本学級の子どもたちは、①の興味・関心については、「遠くに打つのが楽しい」などの思いをもち、ティーボールに関心をもっている子どもが多い。反面、「打ったり捕ったり投げたりするのが苦手だ」「ルールが分かりにくい」などの理由から興味・関心をもてない子どもがいる。そこで、主運動を身に付けさせるために、自分の課題を認識したり動きの感覚をつかんだりする運動体験や課題に合う練習をさせるようにする。また、ルールやゲームの進め方についての掲示資料の活用や友達の動きを見せながら説明をしたり、恐怖感を和らげるためにボールの種類を考慮したりする。

②のみんなが楽しめるルールについては、打って得点を得ることや一人一人が攻撃や守備に参加できるようにすることについて考えている子どもが多い。そこで、「全員打ち終わったら攻守交代」「初ヒット1点」など全員が打つことや得点を楽しめるルールや、幅を狭くするなど守りやすいコートを工夫する。また、③のチームが勝つための作戦については、ポジションを決めてバランスよく守ることや相手のいない所を狙って打つことに関する作戦を考えている子どもが多い。そこで、自分のエリアにきた打球を捕って素早く塁に移動したり人のいない方向や位置にボールを投げて走塁したりするタスクゲームを取り入れて攻撃や守備の動き方を理解させることで、チームの特徴に合った作戦を考えさせるようにする。

④の動きの課題に対する自己把握については「狙ったところに投げる」「高く上がったボールを捕る」などゲームで求められる主運動を課題として認識している。⑤の動きのコツについては、漠然としたイメージでとらえており、**体の部位に着目して動きのコツを表現できている子は少ない**。⑥のボール操作の技能についても、約4割の子どもは**投げたり捕ったり打ったりするときに動きのコツを生かしていない**。これらのことから、ゲームで求められる主運動ができるように、主運動ができるか体験する試しのゲームを行い課題をつかませる。そして、肘を引いて腕を振るというような体の部位ごとの動きを体験できる運動をさせて動きの感覚をつかませるようにする。その際、友達同士で体の部位に着目して動きのコツを伝え合い体の動きを確認させるようにする。

(4) 指導上の留意点

- ア 試しのゲームで、ゲームにつながる**打つ・捕る・投げる動きができるかという観点をもたせることにより、実態を自己認識させ**、「打てるように練習する」などの個人の課題を発展・連続させていきたい。また、楽しめなかった子どもの意見を取り上げて話し合うことでチームや全体の課題を明確にする。そして、「みんなが楽しめるティーボールのゲームをしよう」という共通課題を設定し、ルールを工夫するという課題を連続・発展させていきたい。
- イ 「打つ」「捕る」「投げる」といった主運動に必要な腕の筋力や柔軟性などを高める運動を準備運動に取り入れたり、**主運動につながる「膝を曲げ腰をひねる」「膝を曲げて体勢を低くする」「肘を引いてから腕を振る」など体の部位の動きを体験し感覚をつかむ活動**を位置付ける。また、「的当てゲーム」などのドリルゲームを位置づけて打つ技能を高めたり、「3エリアベースボール」などのタスクゲームを位置づけてゲームの動きを高めたりする。
- ウ 動きのコツを発見したりお互いの動きを教え合ったりするために、**体の部位に着目して自分の言葉で伝え合う活動**を位置付ける。また、初めのルールやコート工夫するためにゲーム後、チーム間や全体での話し合い活動を位置付ける。
- エ 動きがうまくできない子どものために、課題に合った練習の提示や体の動かし方に気付かせる問いかけ・助言などをして、できるようになったことを称賛する。
- オ 全員がゲームに参加できるように1チーム8～9人の4チームを編成し、動きのできる子とできない子が混合する異質グループにすることで動きを学び合えるようにする。
- カ 顔にボールが当たる恐怖心を取り除くために、柔らかいボールを活用して十分に触ったり操作したりして慣れさせ、安心して活動に取り組めるようにする。
- キ 「どんな動きができるようになったか」「友達のどんな言葉で動きが分かったか」「どんなルールやコート、作戦で楽しめたか」など、自己評価するために振り返りの場で発表させたり、学習カードや体育ノートに書き込ませたりして意欲を持続させる。

3 目 標

- 「思い切り打ちたい」「みんなで力を合わせて勝ちたい」などの思いや願いをもち、安全に気を付けながら、友達と教え合い、励まし合って運動することができる。
- 全員が楽しむことができるルールやコートを工夫し、作戦を立てることができる。
- ティー上のボールをバットで打って走ったり、ボールを捕ったり投げたりすることができる。

4 指導計画（10時間）

時間	1・2	3・4(本時)・5	6・7・8	9・10
道筋	つかむ・見通す	つかむ・見通す	挑戦する・工夫する	生かす
課題の追究過程	<p>試しのゲームをして学習計画を立てよう。</p> <p>動きの自己認識 ・打つ、捕る、投げるなど 共通課題 ・みんなが楽しめるティーボールにしたい</p>	<p>必要な動きを立 てよう。</p> <p>必要となる動き ・敏捷性、筋力、瞬発力など ↓ 課題の把握 ・素早く動く力をつけよう</p>	<p>みんなが楽しめるティーボールのゲームをしよう</p> <p>【感覚づくり】 ボールキャッチ、ボール投げ、バウンドキャッチなど</p> <p>全員がボールを打ことができるルールを工夫しよう。</p> <p>【ドリルゲーム】 的当てゲーム、キャッチボール競走など 【タスクゲーム】 ピッチングベースボール、3エリアベースボールなど</p> <p>【ルールの工夫】 ・3アウトで交代 ・全員打ったら交代 ・初ヒット1点</p> <p>【コートの工夫】 ・広さ ・ベースの数 ・ホームランゾーン</p> <p>【作戦の工夫】 ・ねらい打ち作戦 ・散らばり作戦 ・ボールつなぎ作戦</p>	<p>ティーボール大会をしよう。</p> <p>ティーボールのおもしろさを味わい動きができる喜びを感じて運動へ挑戦し続ける姿</p>
楽しさの深まり	知る楽しさ	自分の動きが分かる楽しさ	体力測定にチャレンジする楽しさ	楽しめあてをはっきりもてる楽しさ
	ティーボールのゲームを		夫 が 全 員 が 打 つ こ と を 工 夫 ・ 発 見 す る 楽 し さ	打つ、捕る、投げる動きの感覚がつかめる楽しさ
		合 っ て 協 力 す る 楽 し さ	友 達 と 教 え 合 い 、 励 ま し 合 っ て 運 動 す る こ と が で き る 楽 し さ	打つ、捕る、投げる動きができる楽しさ
		練 習 し て 動 き が 上 手 に な っ て い く 楽 し さ	自 分 た ち の 力 を 生 か し て 勝 つ た め の 作 戦 を 立 て よ う。	打つ、捕る、投げる動きができる楽しさ
		勝 つ た め に 作 戦 を 工 夫 す る 楽 し さ	【作戦の工夫】 ・ねらい打ち作戦 ・散らばり作戦 ・ボールつなぎ作戦	勝つために作戦を工夫する楽しさ
		ル ー ル や コ ー ト を 選 択 す る 楽 し さ	【作戦の工夫】 ・ねらい打ち作戦 ・散らばり作戦 ・ボールつなぎ作戦	ルールやコートを選擇する楽しさ
		打 つ 、 捕 る 、 投 げ る 動 き が で き る 楽 し さ	【作戦の工夫】 ・ねらい打ち作戦 ・散らばり作戦 ・ボールつなぎ作戦	打つ、捕る、投げる動きができる楽しさ
		作 戦 が う ま く い く 楽 し さ	【作戦の工夫】 ・ねらい打ち作戦 ・散らばり作戦 ・ボールつなぎ作戦	作戦がうまくいく楽しさ
		の よ さ が 分 か る 楽 し さ	【作戦の工夫】 ・ねらい打ち作戦 ・散らばり作戦 ・ボールつなぎ作戦	勝つために作戦を工夫する楽しさ
		と を 感 じ る 楽 し さ	【作戦の工夫】 ・ねらい打ち作戦 ・散らばり作戦 ・ボールつなぎ作戦	打つ、捕る、投げる動きができる楽しさ
		み ん な が 上 手 に な っ た こ と を 感 じ る 楽 し さ	【作戦の工夫】 ・ねらい打ち作戦 ・散らばり作戦 ・ボールつなぎ作戦	みんなが上手になったことを感じる楽しさ
		さ や 動 き が で き る 喜 び を 感 じ る 楽 し さ	【作戦の工夫】 ・ねらい打ち作戦 ・散らばり作戦 ・ボールつなぎ作戦	ティーボールのおもしろさや動きができる喜びを感じる楽しさ

5 本 時 (4/10)

(1) 目 標

- ア 「打てるようになりたい」「どうしたらうまく打てるのだろう」という思いをもって、安全に気をつけ、友達と教え合い励まし合いながら運動に挑戦することができる。
- イ 全員が打てるようにルールを工夫することができる。
- ウ 膝を曲げてバットを持った腕を引き、腰をひねりながら腕を振り抜いてボールを打つことができる。

(2) 本時の展開にあたって

- 準備運動段階で、主運動となる打つ動きの習得を図るため、**膝を曲げる感覚、腰をひねって腕を振り抜く感覚を体験させる**。また、打つコツを発見したり練習で動きを伝え合ったりする際は、**体の部位に着目して自分の言葉で動きを表現させ言語活動の充実を図る**。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
つ か む ・ 見 通 す	1 準備運動をする。 ○ 体をほぐし高める附属体操	(分) ↑	○ バットを振ったり投げたりする際に負担のかかる手首や肩・膝などを中心にほぐすと共に、敏捷性や柔軟性などの体力を高める運動を行う ○ 主運動の 打つ動きを身に付けるためにそれにつながる膝や腰、腕の動きが体験でき、感覚をつかめる運動 を行う。
	2 主運動の基礎となる動きをする。 ○ ボールキャッチ(膝を曲げて構える感覚) → 投げたボールを落とさず捕る。 ○ ボール投げ(腰をひねり腕を振り抜く感覚) → 砂を入れた袋を遠くへ投げる。		
挑 戦 ・ 工 夫 す る	3 本時のめあてについて話し合う。 みんなが打つことを楽しめるルールを工夫しよう。	1 3	○ 自分の動きを把握させるために、 お互いの動きを膝や腰、肘に着目して自分なりの言葉で伝え合わせる 。 ○ ルールを確認したりティーボールの動きをイメージしたりするために、掲示資料を活用する。
	4 ゲームⅠに挑戦する。 ○ 的当てゲーム(5球中何球当たるか)	1 0	○ 安全に気をつけさせるために、攻撃の際の待つ場所や道具の位置を確認する。 ○ 狙って打つ動きを身に付けさせるために、自分で決めた方向の的に一人5球ずつ挑戦させる。また、ここでも 膝や腰、肘などに着目して自分なりの言葉で伝え合わせる 。
	5 ゲームⅡに挑戦する。 ○ ティーボール	1 7	○ ゲームの進め方が分からない子には、友達の動きを見せながら説明して、一つ一つの動きを理解させる。
生 か す	6 ルールについて話し合う。	5	○ 「みんなが打つことを楽しめたか。」という観点でルールを考えさせる。
	7 整理運動をする。		○ 自分の課題や成果を確認するために学習カードにできた動きを書かせ、次時以降のめあてを考えさせる。
	8 本時の学習を振り返り、単元のめあてと次時の学習について話し合う。 全員打ってから交代するとみんなが楽しめる。 もっと捕る動きを練習したり、得点を楽しめるルールを工夫したりしたい。		○ 自分の 動きできたことや友達の言葉のよさなどを関連付けて発表させ称賛し 、次時の学習へ意欲付ける。